事例No.	977
公表年度	H30
団体の属性	町村
団体名	神奈川県葉山町

事例区分	行政改革

タグ	・EBPM ・（行政改革）業務の効率化 ・新たな政策手法の確立・活用

事例種類	EBPMの取組

事例内容・タイトル

定量的なモニタリングとランダム化比較実験に基づく政策立案

出典

地方公共団体における行政改革の取組（平成31年3月29日公表）

★EBPM(※)の取組②（ランダム化比較実験に基づく政策立案）

○ ごみの不法投棄対策のため、住民協働による定量的なモニタリングにより実態を把握。
○ 有効と思われる対策の仮説を立てた上で、その対策を実施する資源ステーションと実施しない資源ステーションにくじ引きで分けてその効果を比較実験し、効果のあった対策を政策に反映。

※ EBPM (evidence-based policy making)・・・証拠に基づく政策立案

〈定量的なモニタリングとランダム化比較実験に基づく政策立案 ： 葉山町（人口 約3.3万人）〉

【課題】
・ごみの不法投棄について、**これまでの対策は、**当該箇所の周辺住民や町内会長などへの聞き込み、噂、想像、過去の経緯確認に頼ったものであり、**必ずしも客観的なデータ・根拠に基づくものでなく、効果が出ていなかった**。

【取組】
・住民協働による定量的なモニタリング
158箇所の資源ステーションを町内会の延べ110人が1200回モニタリング（平成27年11月9日～11月30日の22日間）
→ 悪意のあるポイ捨てや不法投棄のごみは16%、収集後の「後出し」と思われるごみが15%、残りは単純な分別誤りと排出場所の誤り。

・ランダム化比較実験
モニタリング結果を踏まえ、「間違えやすいごみに特化したチラシのポスティング」と「後出し防止の収集終了看板の設置」という2つの対策が有効ではないかと仮説を立て、資源ステーション160箇所を、これらの対策を行う2グループと行わない1グループにくじ引きで**ランダムにグループ分けし、比較実験により、それぞれの対策の効果を検証**（平成28年5月16日～6月13日）。
→ 両対策とも有効であることが分かったため、チラシは町内会がタイムリーに利用できるようデータを提供し、看板はH29年度当初予算に計上し、全ステーションに設置した。

【効果】
・**客観的なデータ・根拠に基づく政策を実施**することができた。
・本格的に予算化する前にその効果を実証できたので、**予算の有効活用**ができた。

